

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大学名	一橋大学
整理番号	A-①-3
事業名	アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ（アドバンスト）

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント) <p style="margin-top: 10px;"> 本プログラムは、一橋大学大学院経営管理研究科国際企業戦略専攻（ICS）、北京大学及びソウル大学の3大学が協働して教育プログラムを構築し、日中韓の経済界のビジネスリーダーを育成することを目指している。 </p> <p> 単位の相互互換認定、成績管理及び学位授与プログラムの明確化により教育の質保証が保たれているほか、ダブル・ディグリープログラムに関する覚書の改定等を行うことで、スムーズな単位互換を可能にしている点は評価できる。カリキュラム及び成績評価は、厳格かつ透明性を確保したシステムにより行われ、参加学生は各国の評価基準を事前に確認することができるようになっている。また、より質の高い授業を提供すべく授業評価を行い、評価が基準に満たない授業は研究科長が担当教員と個別面談し、改善案を話し合うシステムが確立されている。学生派遣・受入の短期集中プログラムの参加人数は目標を達成しており、今後の継続と発展に期待が持てる。 </p> <p> 一方で、学期間交換留学とダブル・ディグリープログラムについては、参加人数が大幅に達成されていないことから、根本的な改善が必要である。ICSの学生の8割が留学生であり、取組部局において国際化が進んでいることは明らかではあるが、一橋大学全体の国際化に貢献しているかという点については不明確であり、他キャンパスの日本語科目との連携の推進を含め、全学への波及効果を目指した取組が望まれる。また、オンラインコースは費用を抑えて知識が得られる点はメリットではあるものの、交流の実体験に乏しいため、事業趣旨を踏まえ、オンラインコースを活用しながら実際の直接交流を組み合わせた相互効果についての検討が望まれる。さらに、養成する人材像を基とする具体的なカリキュラムが不明瞭であるため、体系的な検討も求められる。 </p> <p> 最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。 </p>	